

平成19年8月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

## 青梅市内にある遺跡の現状 その3

文化財ニュース第218号と第228号では多摩川上流から中流域、青梅市街の東側まで合計29か所のおもな遺跡をご紹介してまいりました。その続きとして第三回目は青梅市を流れる多摩川下流域の遺跡をご案内いたします。

多摩川によって形成された地形は東青梅付近から扇状地となって広がり始め、山は川から次第に遠ざかってゆきます。山と川との間には、広大な丘陵や河岸段丘が形成され、それらの場所の一部分に遺跡が存在しています。多摩川右岸下流域では、駒木町地区、長淵地区、友田地区があり、計6か所の遺跡があります。上流から紹介すると、駒木町地区では、市内でも重要な遺跡が2か所あります。万年橋の下流で、多摩川が大きく曲がった舌状台地上にある遺跡が駒木野遺跡です。現在のかんぼの宿が建つ敷地で、平成5年11月に全面発掘が行われ、縄文時代の住居跡やお墓の穴（土壇）、円形に並べた配石遺構、平安時代の住居跡などが見つかり、膨大な石器や土器の道具類が出土しました。中でも、土器の下部がそろばん玉形をし、文様もすばらしい勝坂式土器2点が出土し、これは平成17年に東京都指定文化財に指定され、つけたりとして10点の深鉢と1点の浅鉢も指定となりました。かんぼの宿入り口には掘り出された敷石住居跡がそのまま残され、また、勝坂式土器のレプリカがかんぼの宿ロビー内に展示され、観光客が見学できるようにしてあります。郷土博物館へ下る坂道には地下水の湧き出すところがあり、当時の生活の一端を思わせるようになっています。駒木野遺跡の直ぐ下流に広がる舌状台地上に位置している遺跡が喜代沢遺跡です。過去に数回、部分的な発掘調査は行われましたが、全域を対象に昭和53年、遺跡保存のための調査が行われ、住居跡の存在や土器などによる時代の確認が行われました。この遺跡の特徴は、数少ない縄文時代晩期の遺跡として有名です。古くからチャートや黒曜石で作られた矢じりが膨大な数で発見されており、今回の発掘では矢じりに加え、土器や石斧、土偶や土製耳飾、土版、石剣等も出土しました。青梅市内で縄文時代晩期の土器が発掘されたのは市内で3遺跡ですが、後期、晩期の比較的大規模な遺跡はここだけで、大変貴重な存在となっています。長淵地区には原始（寺改戸遺跡）と中世（三田館跡）の遺跡があります。寺改戸遺跡は下奥多摩橋南側台地上に位置し、縄文時代後期の遺跡です。昭和49年3月、下奥多摩橋の取り付け道路の工事中にたまたま発見された遺跡で、その後の調査を含め、30か所ほどの墓跡（土壇）が確認され、甕棺墓としての土器や副葬品としての土器が数多く発見されました。時代は堀之内式から加曾利B式の土器がほとんどで、第9号土壇から発見された注口土器とコップ形土器は国の重要文化財に指定されています。現在でも付近の住宅工事等で部分的な発掘調査が行われることがあり、緑泥片岩でできた中世の板碑も出土したことがあり

（裏面に続く）

ます。現在では宅地化が進み、遺跡の全貌を見ることは困難となっています。しかし、まだ住居跡の遺構が見つかっていないことや玉泉寺近辺から土器や石器の表面採集が出来ることから遺跡は東方へ伸びていることと思われます。三田館跡はここから 800mほど下流の鳶巣川と四谷橋で区切られた幅約 500mの台地上に位置しています。中世三田氏の支族が居住していたといわれ、遺物としては宮所（ぐしよ）跡から正安四年(1302)から南北朝末期の明德二年(1391)にいたる板碑など 12 基が発見されています。現在でも三田を名乗る家が点在しますが、当時の遺構の面影は無く、古い墓地やそこに立てられた板碑が歴史を物語っています。友田地区には方砂遺跡と大荷田遺跡 2 か所遺跡があります。方砂遺跡は大荷田川が多摩川へ流入する左岸丘陵部に位置し、多摩川右岸の最も東側に位置する遺跡です。昭和 16 年故塩野半十郎氏等により発掘調査が行われ、縄文時代後期初頭の敷石住居跡や多量の土器、石錘などが発見されました。現在では宅地化が進み、遺跡の存在はなくなっています。大荷田川を上流へ 900mほど進んだ川の右岸（南側）の台地上に大荷田遺跡があります。公道から山に登る幅 2mほどの農道を上がった右側の台地に位置しています。現在は茅や灌木が生い茂っていますが、かつて此所で耕作が行われていた時、縄文時代早期前半・後半、前期前半・後半の土器や土師器などが表面採集され青梅市郷土博物館に保管されています。この台地の段下では現在でも豊富な湧水があり、水における生活要素は満たされていたことを物語っています。

今回は青梅市を流れる多摩川右岸の遺跡 6 か所をご紹介いたしました。特に都の指定を受けた勝坂式土器、縄文時代晩期の遺構を残す喜代沢遺跡、国の指定を受けた注口土器など、遺物の面からも遺跡そのものの面からも市内では大変重要なものばかりです。本年も文化の日には注口土器の展示を郷土博物館では予定しておりますので、これを機会に是非見学をお勧めいたします。

(文責 鈴木晴也)

